

噴出岩地帯におけるがけくずれの機構および  
予知に関する研究  
(第1報)

Studies on the Mechanism and Foreknowledge of  
Landslides in Effusive Rocks  
(Report I)

ま え が き

近年、土地利用の集約化に伴い、鉄道・道路・集落の周辺等にかげくずれ災害がひん発する傾向がみられ、社会的に大きな影響を与えている。しかし、がけくずれに関する調査・研究は著しく立ち遅れていて、防災対策に有効な科学的技術的基礎資料はきわめて少ない。このため、関係分野の研究機関によってがけくずれ災害を総合的に研究することが早くから要望されていた。

佐賀県多良岳南東山麓地域は、昭和37年7月の梅雨前線に伴う豪雨によって多数のがけくずれが発生し、大きな被害をこうむった。この地域は火山噴出物でおおわれ、かつ山麓の地域開発が進んでいるので噴出岩地域のがけくずれ災害としては一つの典型的な例といえることができる。そこで、国立防災科学技術センターでは、この地域を試験地域とし、同地域内の長崎本線沿いの一斜面を実験斜面に選定して、昭和39年度から「噴出岩地帯におけるがけくずれの機構および予知に関する研究」として総合研究を開始し推進してきた。

本研究の研究分担と担当研究機関は次のとおりである。

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| (1) がけくずれの地質特性に関する研究 | 通産省地質調査所     |
| (2) がけくずれの気象特性に関する研究 | 通輸省気象研究所     |
| (3) がけくずれの運動特性に関する研究 | 鉄道技術研究所      |
| (4) 総合的推進            | 国立防災科学技術センター |

このうち地質特性に関する研究は39年度、40年度の2カ年計画で終了し、他は41年度も継続実施している。

本報では、現在整理ちゅうの実験斜面周辺の電気探査の観測結果を除き、地質に関する研究成果を取りまとめた。気象特性、運動特性については、実験斜面に設置した計器により現在観測ちゅうであるので、後日、本報告の成果、電気探査の結果等をあわせて総合的に解析し、報告する予定である。

おわりに、この研究を推進するにあたり、ご協力いただいている関係各省庁、各研究機関ならびに佐賀県の方々に感謝の意を表すると同時に、今後のご協力をお願いする次第である。